

## 令和 6 年度介護事故報告総括

## 令和 6 年度介護事故報告集計結果について

## 1 項目別集計結果

※市外の住所地特例にかかる利用者の事故報告も含む。

※新型コロナウイルス感染症発生の報告を除く。

## (1) 事故報告件数

## ①介護度別

※小数点以下四捨五入

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	割合 (%)
要支援 1	0	1	0	0 %
要支援 2	2	5	1	0.4%
要介護 1	18	27	22	8.8%
要介護 2	53	36	38	15.3%
要介護 3	44	50	61	24.5%
要介護 4	59	54	68	27.3%
要介護 5	35	30	46	18.5%
その他（職員含む）	4	2	13	5.2%
合計	215	205	249	100%

令和 6 年度の事故報告件数は249件であり、前年度より増加している。

介護度別の件数は、「要介護 4」が68件（27.3%）と最も多く、続いて「要介護 3」が61件（24.5%）であった。

## (再掲) 地域密着型サービスのみ

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	割合 (%)
要支援 1	0	0	0	0 %
要支援 2	1	2	0	0 %
要介護 1	10	13	13	13.7%
要介護 2	39	22	21	22.1%
要介護 3	26	32	30	31.6%
要介護 4	27	24	23	24.2%
要介護 5	14	9	6	6.3%
その他（職員含む）	3	1	2	2.1%
合計	120	103	95	100%

地域密着型サービスのための介護度別事故報告件数は、「要介護 3」が30件（31.6%）で最も多く、続いて「要介護 4」が23件（24.2%）であった。

## ②認知症自立度別

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	割合(%)
I	10	15	13	5.2%
II a	18	13	13	5.2%
II b	42	53	51	20.5%
III a	74	62	68	27.3%
III b	31	26	38	15.3%
IV	26	25	34	13.7%
M	4	2	11	4.4%
自立	4	6	5	2.0%
その他	6	3	16	6.4%
合計	215	205	249	100%

認知症自立度別の件数は、「III a」が68件（27.3%）と最も多く、続いて「II b」が51件（20.5%）であった。中度認知症利用者の事故発生が多い状況となっている。

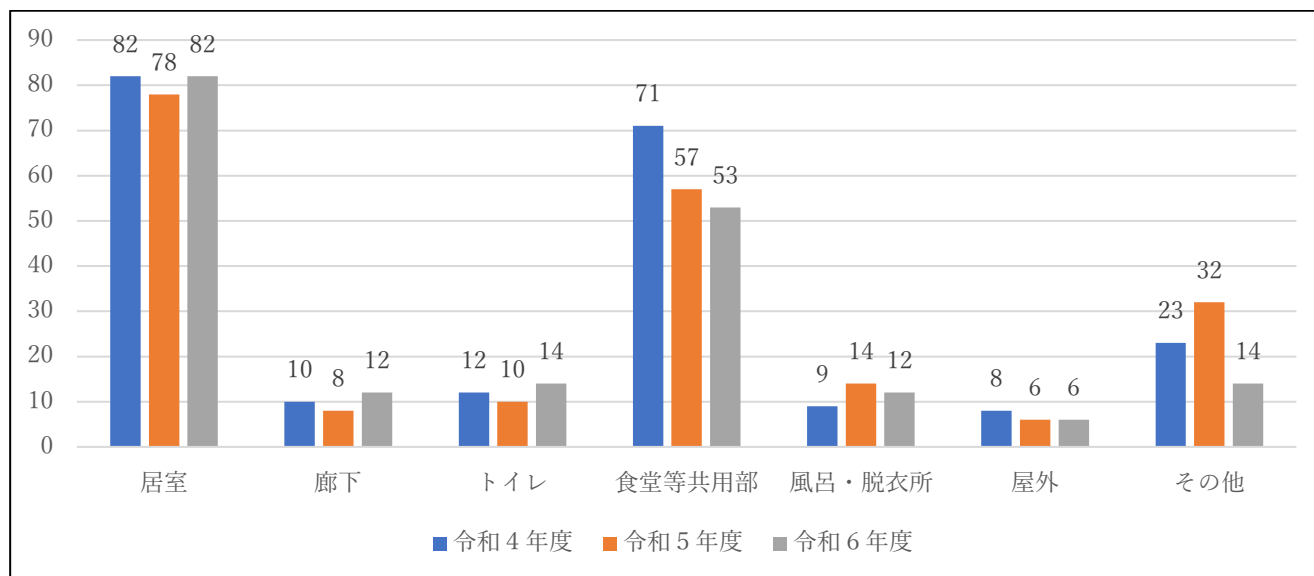
## ③サービス種類別

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
居宅サービス	訪問介護	0	1	0
	訪問入浴介護	0	0	0
	訪問看護	1	0	1
	訪問リハビリテーション	0	0	0
	居宅療養管理指導	0	0	0
	通所介護	11	13	10
	通所リハビリテーション	5	10	4
	短期入所生活介護	14	8	10
	短期入所療養介護	0	0	0
	特定施設入居者生活介護	0	1	3
	福祉用具貸与・特定福祉用具販売	0	0	1
地域密着型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	0	0
	地域密着型通所介護	8	5	3
	認知症対応型通所介護	1	0	1
	小規模多機能型居宅介護	9	21	13
	認知症対応型共同生活介護	92	73	70
	地域密着型特定施設入居者生活介護	4	0	8
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	5	4	0
施設サービス	介護老人福祉施設	45	41	87
	介護老人保健施設	12	21	29
	介護医療院	5	4	7
	居宅介護支援	0	0	1
	介護予防支援	0	0	0
	養護老人ホーム	2	3	1
合計		215	205	249

サービス種類別の件数は、「介護老人福祉施設」が87件（34.9%）と最も多く、続いて「認知症対応型共同生活介護」が70件（28.1%）であった。

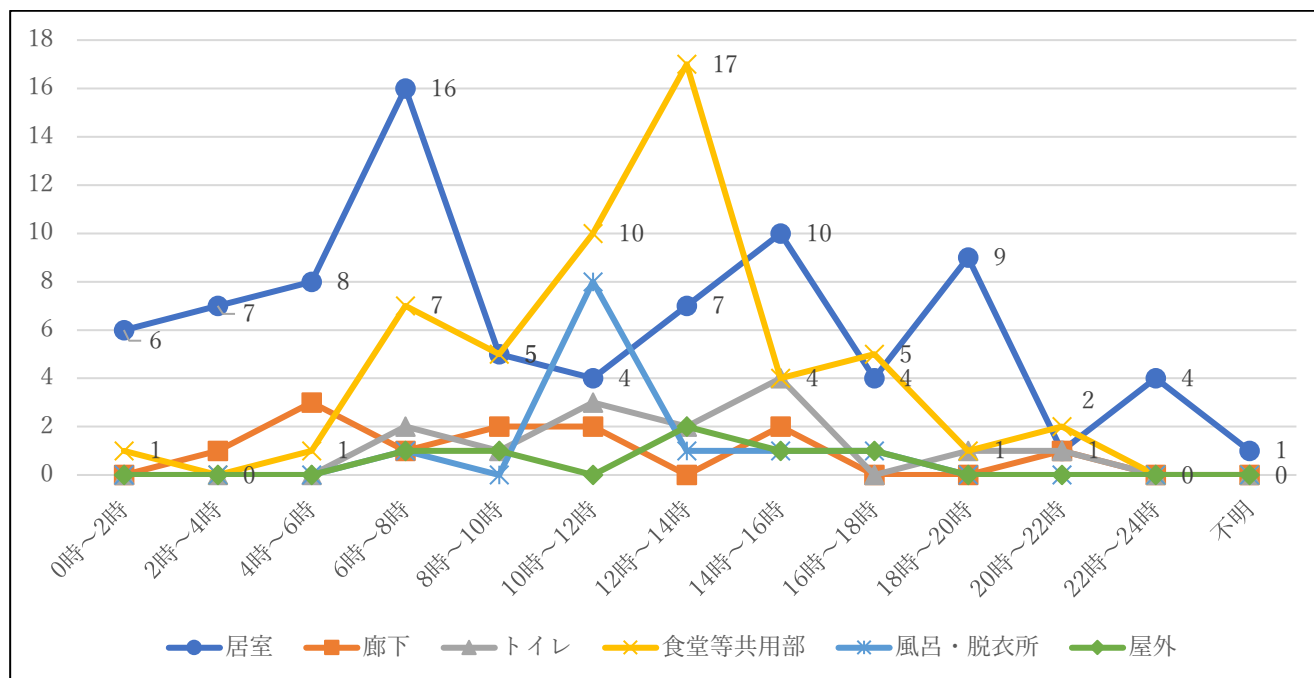
## （２）事故発生場所

### ①年度別（感染症を除く。）



事故発生場所別の件数は、「居室」が82件（42.5%）と最も多く、続いて「食堂等共用部」が53件（27.5%）であった。

### ②時間帯別（感染症を除く。）



居室での事故は全ての時間帯で発生しており、職員の目の届きにくい環境が一因となっていると考えられる。

食堂等共用部での事故は、「12時～14時」が最も多く、続いて「10時～12時」が多い。食事等で利用者が食堂等共用部に集まる時間帯であるため、移動や介助が必要な場面が多くなることが一因として考えられる。

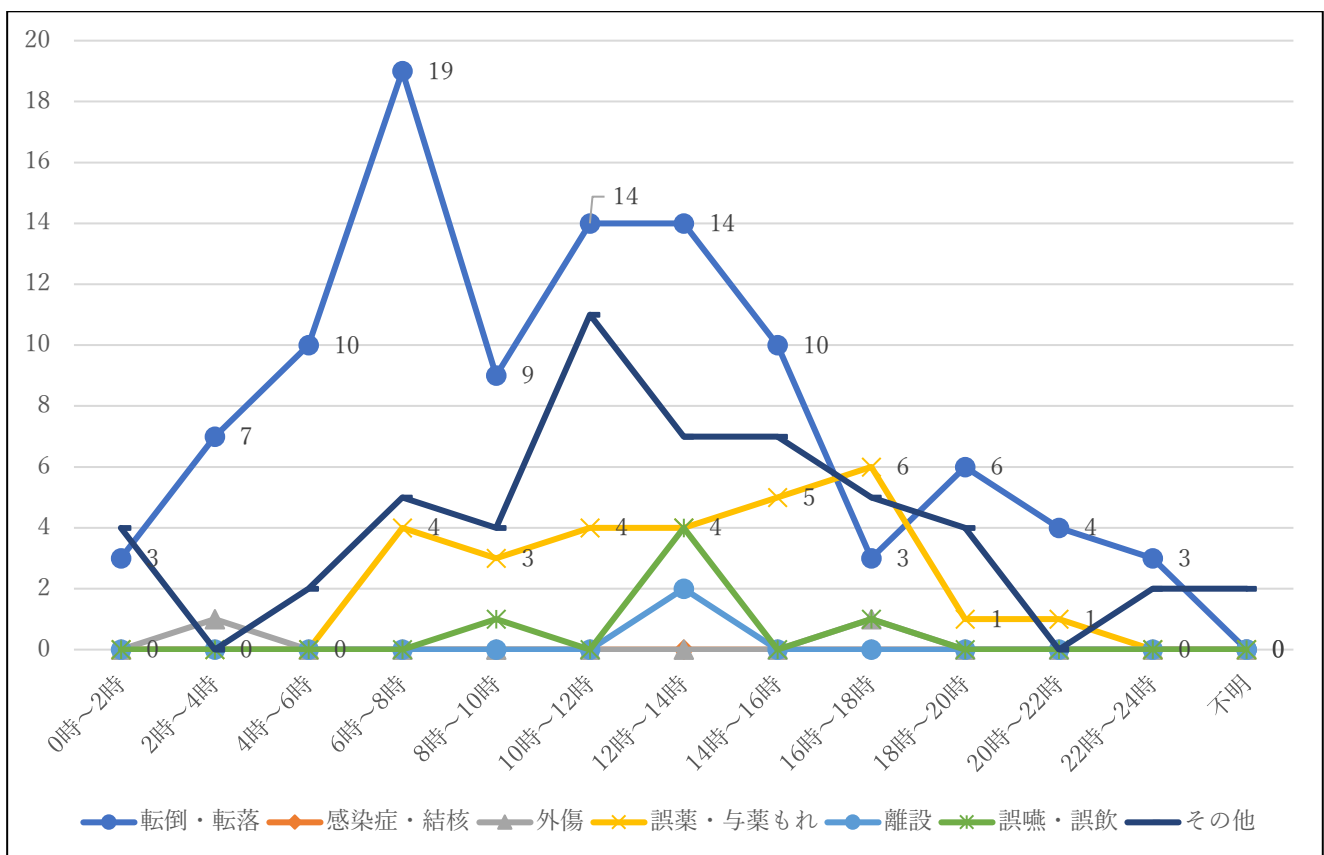
### (3) 事故発生要因

#### ①年度別

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	割合(%)
転倒・転落	107	106	102	41.0%
感染症・結核	3	8	56	22.5%
外傷	0	2	2	0.8%
誤薬・与薬もれ	34	35	28	11.2%
離設	7	7	2	0.8%
誤嚥・誤飲	4	3	6	2.4%
自傷	0	0	0	0%
その他	60	44	53	21.3%
合計	215	205	249	100%

事故発生要因別の件数は、「転倒・転落」が102件(41.0%)と最も多い。転倒・転落の状況については、「車椅子から立ち上がろうとした」、「居室で物を取ろうとした」などであった。事故発生要因はどの年度も転倒・転落が最も多い。

#### ②時間帯別（感染症を除く。）



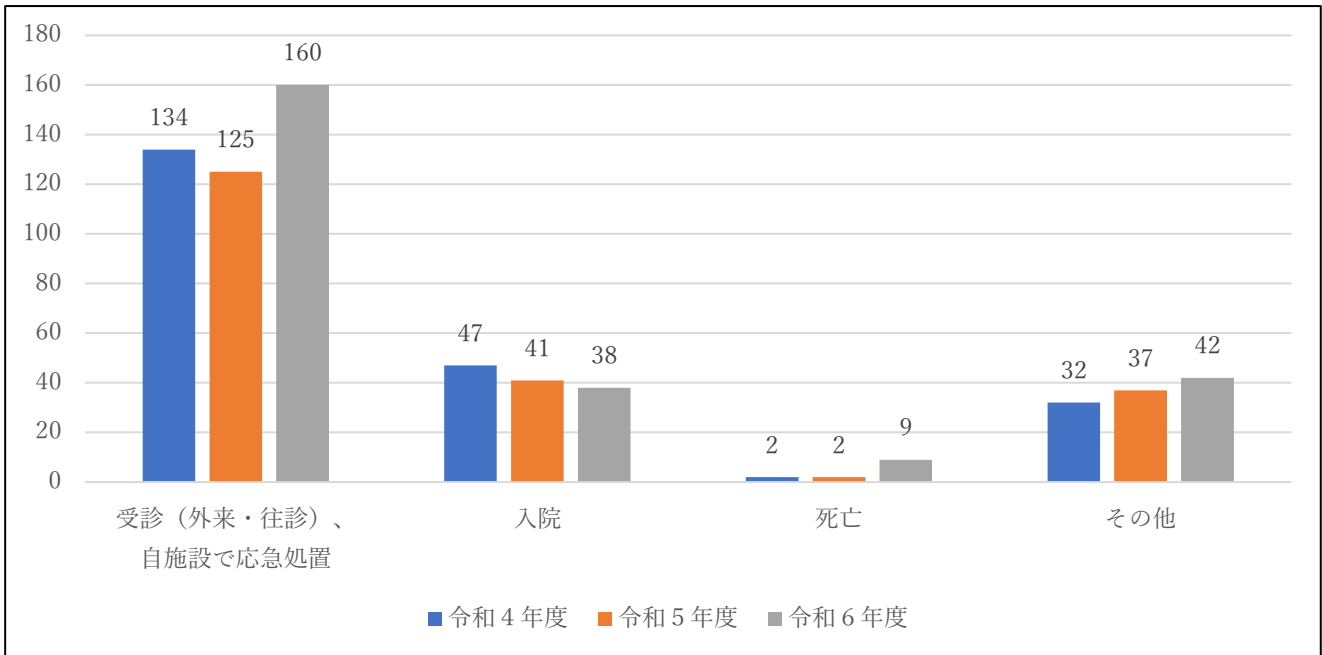
転倒・転落は、「6時～8時」が最も多い。居室での発生が多い時間帯と転倒・転落が多い時間帯には重なりがみられることから、事故の起こりやすい時間帯、場所、事故の種類を把握することで予防対策の確認につながると考えられる。

#### (4) 事故の所見

	異常なし	様子観察	骨折	打撲 捻挫 脱臼	切り傷 擦過傷	脳挫傷	感染症	死亡	その他
転倒・転落	3	2	46	20	21	5	0	0	5
感染症・結核	0	0	0	0	0	0	56	0	0
外傷	0	0	0	0	2	0	0	0	0
誤薬・与薬もれ	5	15	0	0	0	0	0	0	8
離設	0	0	0	0	0	0	0	0	2
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	2	4
その他	1	0	13	1	17	0	0	1	20
合計	9	17	59	21	40	5	56	3	39

事故の所見別の件数は、「骨折」が59件（23.7%）と最も多く、発生要因として転倒・転落が多い。また、転倒・転落が「打撲・捻挫・脱臼」や「切り傷・擦過傷」等の外傷の要因となっている。

#### (6) 事故状況の程度



事故状況の程度別の件数は、「受診（外来・往診）、自施設で応急処置」が160件（64.3%）で最も多くなっている。

(7) 事故報告が無かった鹿屋市内の事業所一覧

		報告が無かった事業所数（全事業所数）		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
居宅サービス	訪問介護	36 (36)	35 (36)	35 (35)
	訪問入浴介護	1 (1)	1 (1)	1 (1)
	訪問看護	11 (12)	17 (17)	20 (21)
	訪問リハビリテーション	8 (8)	8 (8)	8 (8)
	居宅療養管理指導	160 (160)	160 (160)	152 (152)
	通所介護	25 (35)	25 (36)	32 (39)
	通所リハビリテーション	11 (14)	9 (14)	11 (14)
	短期入所生活介護	6 (12)	6 (12)	9 (12)
	短期入所療養介護	5 (5)	5 (5)	5 (5)
	特定施設入居者生活介護	1 (1)	1 (1)	0 (1)
	福祉用具貸与・特定福祉用具販売	6 (6)	6 (6)	5 (6)
地域密着型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1 (2)	1 (1)	1 (1)
	地域密着型通所介護	19 (27)	21 (25)	23 (24)
	認知症対応型通所介護	4 (5)	4 (4)	3 (4)
	小規模多機能型居宅介護	2 (6)	1 (6)	1 (6)
	認知症対応型共同生活介護	3 (32)	7 (32)	8 (31)
	地域密着型特定施設入居者生活介護	1 (2)	0 (2)	0 (2)
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0 (1)	0 (0)	0 (0)
施設サービス	介護老人福祉施設	0 (8)	0 (8)	0 (8)
	介護老人保健施設	1 (4)	0 (4)	1 (4)
	介護医療院	2 (4)	2 (4)	1 (4)
	居宅介護支援	34 (34)	35 (35)	32 (33)
	介護予防支援	1 (1)	1 (1)	1 (1)
	養護老人ホーム	0 (1)	0 (1)	0 (1)
合計		337 (416)	345 (419)	349 (413)
割合		81.0%	82.3%	84.5%
再掲 (地域密着型のみ)	合計	30 (75)	34 (70)	36 (68)
	割合	40.0%	48.6%	52.9%

事故報告がなかった事業所については、表のとおりである。